

名品になった詫^わび状

(教科書 32～33 ページ)



おんめいじょう

恩命帖

平安時代・九八二年／藤原佐理
ふじわらのすけまさ

召筆左右馳求、

更無一二管。先所出

来是也。不有如然

之御用。若今明求得、

「佐理(草名)」謹奉恩命、恐々

追将経御覧耳。

戦々。抑彼箭事、

一日以垂将返報為令

御覧、馳奉已了。而今

有此命。驚怪不少

計也。弊文落失

歟。只今召問可蒙処分。

須彼緒風所陳、以件(箭、……)

内容

弓の技を競う正月の年中行事のために、矢の調達を命じられたが、手違いによって間に合わなかったことを詫びた手紙。「謹奉恩命」という語句にちなみ「恩命帖」と名づけられた。日付や宛先は不明だが、末尾に記された署名から、上位の者に宛てたものと推察される。

りらくじょう

離洛帖

平安時代・九九一年／藤原佐理

「佐理(草名)」謹言。離洛之後、未承

動静、恐鬱之甚、異

於在都之日者也。就中、

殿下何等事御坐哉。

進発以前、不参之勘

責、無方避逃件也。

優顧幸甚々々。抑「佐理(草名)」今

月十六日、来到長門赤

馬泊。入境之日、未有

一定。著(着)府之後、追

可聞子細。恐惶頓首。

「佐理(草名)」謹言。

五月十九日旅士「佐理(草名)」

謹上 春宮権大夫殿政所

内容

大宰大貳に任じられて九州へ向かう途中で、おいの誠信に宛てた手紙。摂政・藤原道隆に赴任の挨拶を忘れたことに対して、詫びのとりなしを依頼している。「謹言。離洛之後」という書きだしから「離洛帖」と名づけられた。随所に佐理の草名(署名)が見られる。